

来たる総選挙は政権交代の歴史的チャンス！青年の願いが実現される野 党連合政権をつくらう！

二〇二一年一月一六日 民青同盟中央常任委員会

同盟員のみなさん。歴史的総選挙が近づいています。来たる総選挙は、コロナ危機から青年の命と暮らしを守り、人々の暮らしと権利を最優先にする政治に切り替える選挙です。同時に、史上初めて、日本共産党を含む野党共闘で本格的にたたかう総選挙であり、野党連合政権の実現で新しい社会への一步を踏み出す絶好の機会です。

この総選挙で、政権交代をやりとげて青年の願いを実現するために力を尽くすことを呼びかけます。すべての班が「日本共産党と一緒に政治を変えよう決議」をあげて、市民と野党の共闘の勝利と日本共産党の躍進へ力を合わせようではありませんか。このアピールを繰り返し討議し、来たる総選挙に向けた系統的な取り組みを始めましょう。

1、来たる総選挙の歴史的意義について

(1) コロナ危機から青年の命と暮らしを守り、人々の暮らしと権利を最優先にする政治に切り替えよう

青年の実態は極めて深刻なものとなっています。全国で感染が拡大し、2回目の緊急事態宣言が各地で発出されています。「来年も学費を払ってオンライン授業と思うとつらい。休学を検討中」「派遣先が人を減らすといった。どうなるか不安」「バイト先が廃業を決めた。収入がなくなる」といった実態が出されています。いま、文字通り青年の命と暮らしを守ることは急務です。

しかし、青年・国民の苦難に背を向け続けてきたのが菅政権です。菅政権は、コロナ危機のもと科学を無視し続けてきました。「検査・保護・追跡」の抜本的拡充という感染症対策の科学的原則にたった取り組みをせず、それどころか大企業の儲けのための「G O T O」事業で感染拡大に拍車をかけました。

菅政権は、コロナ危機のもとでさえ「自己責任」を押し付ける、新自由主義そのものといえる政治を続けてきました。各地で相談会や学生への食料支援などの支援活動がおこなわれていますが、困窮するひとたちへの支援は本来、「公助」として国がおこなうべきものです。大企業には「デジタル化」「国際金融センター」などの名目で様々な支援策を打ち出す一方、中小企業支援には消極的で、コロナに便乗した中小企業淘汰を進めようともしています。大学に対しても、コロナ対策及び学生の負担軽減の責任を各大学に押し付け、結果として多くの大学生が追い詰められています。

次の総選挙で菅政権を倒し、コロナ危機から青年の命と暮らしを守り、人々の暮らしと権利を最優先にする政治に切り替えること——「新自由主義からの転換」が求められているのではないのでしょうか。

(2) 日本共産党を含む野党共闘で本格的にたたかう最初の総選挙であるとともに、政権交代ができる歴史的総選挙

来たる総選挙は、日本共産党を含む野党共闘で本格的にたたかう最初の総選挙であるとともに、政権交代ができる歴史的総選挙です。二〇一五年の安保法制強行採決以来、野党は共闘を重ねてきました。二〇一七年の総選挙では、希望の党による共闘分断がありました。それも跳ね返し、モリカケ疑惑等での合同ヒアリングや国会質疑の分担、共同法案の提出や参院選での共通政策の発表、各地の選挙での協力など、かつてなく共産党を含む野党の関係は強くなりました。その結果、ついに政権交代が手の届くところまで見えてきています。

野党共闘を力強く後押しし、政権交代の可能性の見える情勢をつくってきたのが、市民運動でした。「市民連合」や全国各地の市民運動が、それぞれの要求を掲げ、野党に共闘を求めてきました。私たち民青同盟も、二〇一五年以来、青年の要求を掲げ、草の根から、青年の要求が実現される野党共闘のために力を尽くしてきました。

次の総選挙は、この間の、そういった努力が政権交代として実を結ぶ、歴史的チャンスです。市民と野党の共闘を進展させ、政権合意と青年にとって魅力的な共通政策を掲げる本気の共闘をつくり、野党連合政権を樹立しようではありませんか。

(3) 市民と野党の共闘の勝利とともに、日本共産党を躍進させることが重要

次の総選挙で青年の要求が実現される新しい政治を切りひらくためには、市民と野党の共闘の勝利とともに、日本共産党を躍進させることが重要であり、大きな意味を持ちます。

共産党の躍進は、野党連合政権をつくる上で、もっとも確かな力となります。共産党は、ぶれずに「野党連合政権を」と呼びかけてきました。今日の市民と野党の共闘の発展は、市民運動の後押しとともに、野党共闘の推進力ともいべき共産党の奮闘があつてこそつくられてきたものです。共産党の「新しい日本をつくる五つの提案」は、最低賃金一五〇〇円、大学等学費半減と本格的な給付奨学金創設など、青年の要求を実現する具体的な提案であるとともに、野党連合政権が実行する「政権公約」に向けたたたき台として提唱されているものです。この「五つの提案」という新しい日本の構想は、野党連合政権を樹立するための何よりの力になります。

共産党の躍進は、野党連合政権が「五つの提案」を実行していくために不可欠なものとなります。「五つの提案」を本気で実行しようとしたら「アメリカいいなり」「大企業優先」という二つの歪みに行き当たたらざるを得ません。「アメリカいいなり」「大企業優先」の政治をおおもとからただす立場にたっている共産党の議席を増やし、国会で大きな力をもたせることが必要です。

共産党の主張について、次の総選挙で多くの青年に知ってもらうことは、資本主義を見直す動きとの関係でも重要です。全国大会決議にもある通り、コロナ危機によって、格差と貧困の拡大、地球環境破壊という資本主義の限界が深刻な形で浮き彫りになり、社会主義・共産主義への注目が強まっています。アメリカ大統領選挙では、資本主義の弊害を実感し「社会主義」に共感する青年たちが活躍しました。民青新聞新年号の新春対談で、共産党の山下副委員長は、日本の青年にも社会主義が受け止められる状況があるのではないかと指摘し、「社会主義の展望、未来、希望を語っていくことにチャレンジしていきたい」と語りました。共産党の語る資本主義への批判とそれを乗り越える未来社会論を力に、資本主義の矛盾に苦しむ青年と未来を語り合う選挙にしようではありませんか。

2、来たる総選挙にどのように取り組むか

(1) 全班全同盟員で歴史的選挙に踏み出そう——すべての班が「日本共産党と一緒に政治を変えよう決議」をあげることを目指す

来たる総選挙にはどう取り組むか。取り組みの基本は、すべての班が選挙アピールを討議し、政権交代を目指し市民と野党の共闘の勝利と日本共産党の躍進へ力を合わせるための、「日本共産党と一緒に政治を変えよう決議」をあげることです。「変えよう決議」をあげてこそ、「班が主人公」で班プランに選挙の取り組みを盛り込んでたかうことができるようになります。

「日本共産党と一緒に政治を変えよう決議」は、民主的な議論を尽くし、繰り返しのアピール討議で「政権交代でどんな政治を実現したいか」「日本共産党の躍進が政治を変える力になるのか」を交流したり、学習を重ねたりしながら、一人ひとりの同盟員の賛同を得て、すべての同盟員が賛同できるように努力しましょう。それを前提としながら、すべての班が四月末までに、班員の過半数の同盟員からの賛同を得て、決議をあげることを目指しましょう。

(2) 学習と運動を力に選挙の取り組みをひろげよう

取り組みの基本は「変えよう決議」をあげることですが、総選挙まで一定の期間があることから、週一回の班会開催を大切にしながら、学習及び運動を力に、総選挙にむけた取り組みをひろげること挑戦しましょう。

第一に、班員が、「五つの提案」と日本共産党綱領、民青新聞を学ぶことを重視します。班ではもちろん、地区委員会・都道府県委員会、党の力を借りながら学びましょう。民青新聞では、選挙学習に活用できる特集記事を十面・十一面に載せていきます。

第二に、「政策提言のための聞き取りプロジェクト」などで実態を集めることを大切にします。これらで集めた実態は、市民と野党の共闘を進める力になるとともに、同盟員自身が総選挙で政治を変えたいと思う土台となるものです。現時点では、「プロジェクト」は一月末に中間の取りまとめをしたのち、三月末までの取り組みとします。

第三に、選挙に向けた学習や宣伝、つながり対話と支持拡大などに、民青同盟らしく取り組みましょう。宣伝やつながり対話で青年がどのような要求をもっているのかをつかむ、「五つの提案」を青年に知ってもらって反応を知る、青年の要求から選挙をとらえるための学習をする、など班や地区委員会・都道府県委員会と相談しながら系統的に取り組ましましょう。

第四に、日本共産党後援会やJCPサポーターに力を合わせ、ともにたたかう青年の輪を広げましょう。

(3) 選挙の取り組みの中で、たくさん仲間を迎えよう

アピールの最後で強調したいのは、選挙の取り組みのなかで、たくさん仲間を迎えようということです。ある県では、食料支援で結びついた学生が、加盟呼びかけ文を読み、「自分から動くことが大事ですね」と共感し加盟しています。別のある県では、社会主義に興味があるという青年が、「民青に入りたい」と共産党に連絡してくれて、加盟しています。同盟員拡大数は、全国大会直後の十二月としては、二〇十四年以降で最高の到達となっています。選挙の中でも、仲間を迎える努力を貫き、強く大きな民青をつくりましょう。

コロナ危機のもとで、「このままではいけない」「何かできないか」と模索している青年にとって、食料支援や生活相談、そして総選挙など、青年の要求を掲げその実現のために力を尽くす民青は魅力的な存在です。全国各地の食料支援活動のなかで仲間が次々と増えていますが、それとともに、青年の要求を総選挙で実現しよう、市民と野党の共闘で政治を変えよう、という呼びかけによって仲間が増えるときです。

また、日本共産党を相談相手とし、科学的社会主義と日本共産党綱領を学ぶことが大きな魅力としてうつる情勢です。国会での活躍、草の根での相談活動、ジェンダーや環境問題への真剣な取り組み、そして資本主義を乗り越える展望を指し示す未来社会論など、共産党と青年の思いは大いにかみ合う条件があります。共産党の政策や主張を知らせ、共産党を相談相手とする民青同盟とともに学ぼうという呼びかけによって仲間が増えるときです。

そして、「班が主人公」での拡大が、よりいっそう求められています。コロナ危機のもとで青年の社会や政治への見方は変化していますが、大多数の青年にとって、一緒に学ぼう、行動しよう我真剣に呼びかけられる機会はありません。皆、模索を抱えたまま、この激動の情勢のなかで過ごしています。今こそ、「班が主人公」で、自らのつながりや運動でむすびついた青年に、思い切って加盟を呼びかけるときではないでしょうか。

同盟員のみなさん。いよいよ新しい政治をつくる、歴史的総選挙です。大会決議に基づき、豊かな班づくりと草の根の運動をひろげながら、この歴史的総選挙に、持っている力をすべて出して取り組もうではありませんか。

以上